

「イエス様が教えられた宣教についての10の教え」

マタイ10:34~42

最近励ましが必要な方はいますでしょうか。またコロナの時期の中での様に教会に通っていない人達にイエスキリストの希望を伝えることができるだろうか真剣に悩んでいる方はいますでしょうか。この日本に主の計画が民族に現れるのだろうか、日本の大リバイバルが一億二千万人に対して起こるのだろうかと悩んでおられる方はいますでしょうか。

そんな方に映画「赦しの力」を紹介しします。福音直球で聖書の御言葉が開かれています。イエスキリストの愛を通して一人の少女が回復していきます。まさに今の日本に必要なのは聖書のメッセージです。親子関係や夫婦関係ギクシャクされている方はいるでしょうか。是非見て下さい。

イエス様は奇跡や偉大な天の御業ではなくてイエス様が選ばれた道は私達一人一人のような弱さを持った者を通して神の福音、神の国が広がる事、キリストの教会を建てあげる事によってこの世界を回復させようとして今も信じて働いておられる方が私達の主であります。

イエス様が教えられた宣教についての10の教えというシリーズ最後のところですが、イエス様が10のポイントを教えてくださいという事を心に刻みながら私達一人一人イエス様が導かれる宣教に携わっていきたくと思います。

- ① 選択
- ② 方向性
- ③ メッセージと働き
- ④ 必要経費
- ⑤ 人材
- ⑥ 警告と奨励
- ⑦ アイデンティティと自信

⑦ アイデンティティと自信

イエス様は選択される方、方向性をはっきりと示される方、その内容のメッセージと働きを教えてください、必要経費は何処から出てくるかはっきり教えてください、一人ではできなく人材が必要であると教えてください、それだけ揃ったとしても私達が進む時に楽な道ではないと警告を教え励まし与えてくださる方、そのような混乱の中であなたは、私は誰か。とはっきり持っていないというわけです。この映画の中でも自分はクリスチャンだと思っていたコーチが、ある人と出会ってあなたは誰ですか？と聞かれます。私は高校の教師だと答えます。では、高校の教師の仕事が無くなったらあなたは誰ですか。誰かの夫で誰かの親かな？ではヨブのようにそれが取り除かれてしまったらあなたは誰ですか。アメリカ人かな？ではそれさえも取り除かれてしまったらあなたは誰ですか。あなたはイエスキリストにあって誰かと言う答えがクリスチャンですが出てこないのです。私達はクリスチャンでありながら多くの鎧をかぶってこれが永遠の様に続くかの様に錯覚しながら本当のアイデンティティを失って生きてしまっています。しかし、この映画のメッセージは御言葉の力を通してはっきりと神様は、私達は誰か。仕事が変わっても、健康が無くなっても、国籍が変わったとしても、家族が先に逝ったとしても私は誰なのかという事を永遠にしっかりとつとめことができると聖書は教えています。

⑧ 霊の戦い

霊の戦いがあるとイエス様はおっしゃっています。私達のアイデンティティは何かという時にイエス様がはっきりと私達のアイデンティティは、あなた達は私の弟子なのだ。私に似た者となる事を決心して歩み始めた者なのだ。イエス様の考え方、イエス様の価値、イエス様のやり方が第一とならなければいけない。第一となった時に周りの人との関係が今までは違った事になっていくことを覚悟しなければならぬという事です。霊の戦いとはどういう事でしょうか。私達は戦争をする存在ではありません。しかし今までこの世界の価値観で生きてきたけれども私は今日から神様にあってこういう生き方をしますと決めた時に家族や仕事場の人達は驚きます。そして一旦は関係が悪くなることもあるかもしれません。しかしイエス様を第一にしていく時にイエス様ご自身が赦しと和解と回復と私達の想像を超えた偉大な御業をイエス様ご自身がされるという事を見ることができま

第一テモテ5:8、第一テモテ3:4、5

私達は家族からの傷が多いと家族を遠ざけてしましますがこのみ言葉を受けた時に家族は捨てていいと思ってしまうのですが、そうではありません。聖書は明確にキリストを信じる者がいるならば誰以上に家族を愛していく存在にならなければいけないと教えています。家のリーダーである父、母の存在は教会も仕事も大切ですが家族の中で輝くことの大切さを使徒パウロは伝えています。

⑨ 二者択一 マタイ10:38、39

イエス様は戦いがあるけれども選べる道があると言っています。イエス様は私の弟子となりたければ日々自分の十字架を背負って私について来なさいと明確におっしゃられたお方です。私達一人一人が背負うべき十字架が必ずあります。背負いたくありません。捨てたい、逃げだしたい、投げ出したいのです。しかし、イエス様はその十字架を背負われ、あざけりの道、ゴルゴダへ向かうカルバリの道をイエス様は歩かれたのです。私達のイエス様はお前一人が十字架を背負えと言う方ではありません。

私達に委ねられた十字架を背負って行く時に目を上げて見てみるならば確かに自分の前を私の為の十字架を背負われて血だらけになったその背中を私達は見る事ができます。

血だらけで鞭打たれて私の為に十字架を背負ってくださっているその十字架には愚かな過ち犯した全ての罪状が書き記されているその十字架を背負われて一歩、一歩と歩かれているイエス様を後ろから見るときに私達の道は、はっきり現れます。それがイエス様の弟子になっていくことです。

福音の素晴らしき十字架もちろんですが、その向こうにある復活です。イエス様は確かに死なれました。ですから私達も死を要求しますがイエス様にあって死ぬ時に完全に言葉をなくす時に復活の御業が起きます。皆が生き、こんな道があったと驚き、成長し輝き、お互いに尊敬しあう不思議な御業が起きます。しかし、それは一人の人が十字架を背負う決断をした時に御業が起こるのです。

イエス様は回復の方です。再建の主、希望の主です。しかし、私達自分が背負うべき十字架を他の人に背負わそうとした時に人間的な争い、戦いが一番大切な関係の中から起こってしまう事を経験しています。

イエス様は私の後について来なさい。私がピアドロローサの歩んで行くその道をあなたは見ているか。その一歩を踏み出していきましょう。この6か月間色々な事があったと思います。一番大切な人との関係の中であの人は赦さないというリストがありますでしょうか。イエス様は今日置きなさいと言っています。2020年前半大変だったけど復活の御業を見る後半期を私はあなたに経験してもらいたい、その一つの道は私が歩んだたった一つの道しかないことをイエス様は教えてください。

⑩ サポート マタイ10:40~42

私達は人材が必要です。人の働きも必要ですが自分一人ではできないのです。誰かが必要で自分自身を支えてくれる人も必要であれば私達も誰かを支えていくときに神の国が広がっていきます。私達は共に協力し合っていくかなくてははいけません。私達は誰かに受け入れてもらいたいと考える存在です。あなた方をイエスの御名によって受け入れる人は私を受け入れます。

さいごに ~次世代の子どもたちへ~

今は預言者ではありませんが次世代の子どもたち、中高生たちは将来の預言者です。ある人が国は次世代から借りているものと表現しました。だから、大人たちは次世代から借りているものだからこの国を大切に守って次の世代に譲っていくかなくてはいけませんと明言を残しました。この教会は次世代から借りているものだと思います。

ですから私達がどの様に愛し合いどの様に教会を愛していくかその任務を終えた時

に次の次世代から立ち上がって想像を超えた偉大な御業をしていくと信じています。

アメリカの大統領ジミー・カーターは任期前と任期後、今に至るまで主日学校の先生をやっています。大統領でしたけど何よりも自分の教会で一人の子どもに絵本を読んであげる。一人の子どもの名前を覚えて愛していくことがこの国を愛することだ。神の国を愛することだと信じている素晴らしいリーダーです。

私達がサポートし合い小さい者たちに一杯の水でも飲ませるときに主が私達の想像を超えた偉大な御業を成してくださる。これからのリーダー達と共にサポートし合いながらイエス様に従っていく弟子となっていくかと思いたいと思います。

見よ私は世の終わりにまでいつもあなたの方と共にいます。

(要約者:富岡美千男)

(2020年7月19日)